

## 令和7年度日光市まちづくり懇話会(塩野室地区)概要

日 時:令和 7 年 11 月18日(火)午後6時 30 分～8 時

場 所:日光市役所小林公民館会議室

参加者:地区側参加者8名

市側参加者 (市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、他地域振興課職員)

### 【市長】

改めて、日頃から地区の皆様には、各種事業へのご協力など、深く感謝申し上げます。今回は市長就任後初めての地区での懇話会となります。懇話会という名前ではなく、タウンミーティング形式のような、もう少し砕けた形で、出席者の年齢や性別、議論内容等も柔軟にやっていければと考えています。今年1年は試行錯誤で進め、来年以降に地元の方々と話す場として育てていきたいと思えます。

事前アンケートからも分かりますが、自治会や地域の課題、日光市全体の課題として、少子高齢化・人口減少・担い手不足が大きな問題として挙げられています。来年度から 10 年スパンの第 3 期日光市総合計画が始まります。私自身もこの人口減少を何とか食い止め、10 年間で人口 6 万人を目安に減少ペースの緩和を目指します。

今の日本全体の人口減少のなかで、企業誘致などで急激に人口を増やすことは困難ですが、減少ペースを緩やかにするための施策を進めます。特に「若い女性」が地方自治体に住み続けていただくことが重要なのですが、どう増やすかという、今、いる子どもたちに住んでもらうというのが一つ、出ていった子どもに戻ってきてもらうのが一つ、移住定住で来てもらうのが一つ、しかも若者。日光市は若い女性の県内流出が多いという調査結果があります。主な理由は「若い女性が働ける場所が少ない」「子育て支援施設、室内で遊ぶ施設が足りない」「緊急医療や産科・小児科が不足」などの意見があり、他の自治体と比べて見劣りするところの意見です。

そういった現状を 10 年かけて改善し、「若い女性が住み続けたい・移住したい」と思えるまちづくりを目標にしています。また、インフラ整備など短期・中期・長期の目標設定も必要であり、批判は覚悟の上で新しい政策にも挑戦していきます。

4 年間の任期で「まちが明るく変わったな」「若い女性や子育て世帯、若者たちが魅力を感じるまちになった」と感じてもらえるよう、トータルなビジョンをお示していきます。

### 【参加者 A】

少子高齢化が進む中、我が地区も人口減少が大きな課題です。働く場所を増やすのは現実として難しいので、まちの人口を 6 万人程度で維持するという考えに共感します。自治会活動についても、昔と同じ組織でやっていくと、今は 1 人で複数の役を兼務することになり、「入らなくていい」「苦勞するくらいならやめたい」という意見も増えています。組織の体制、規模を地域に合わせて減らしていく必要があるのではと思えます。

### 【市長】

自治会加入率の低下や人手不足は地域全体の課題です。他自治体では自治会連絡協議会を立ち上げ、連携による運営や、実施できないところは小学校区・中学校区単位で協力体制を作る例もあります。ただ、自治会統合となると、歴史・伝統の面からも抵抗が大きく、現時点では難しいようです。今後は自治会同士の連携で運営を補う新しい仕組みも検討できればと思えます。伝統行事などもコミュニティ形成のために維

持していく強みがあるので、しっかり進めていきます。

【地域振興部長】

昨年度、自治会長に現状のアンケート調査を実施しました。結果は自治会長研修会で報告します。市民向けにもアンケートを実施します。その中でもこれからの自治会のあり方を考えていきます。

【参加者 B】

課題が大きすぎて具体的ではありませんでしたが、やはり少子化が最重要課題です。PTA 活動をしていた頃から子供の数の減少を実感しています。解決策は思いつきません。世代交代がうまくいかず、60～70代・80代が地域の中心で、若い世代が地域に関わっていない現状があります。つながっていけば地域はまだ捨てたもんじゃないと思います。次世代への引き継ぎがスムーズにいくための仕組みが必要ですが、具体策が見つからず、悩んでいるところです。

【参加者 C】

小林の獅子舞も世代交代が進まず、演目を減らしています。

【参加者 B】

伝統行事も世代交代が進まず、中心の方々が動けなくなった際、ノウハウが引き継がれずに行事が止まってしまう懸念があります。自治会員も昔からの住民は加入していますが、外から来た人は「役をやりたくない」「抜きたい」といった考えも増えています。こうした状況下で、昔からの集落であっても、自治会を維持すること自体が難しくなっているように感じます。

【副市長】

宇都宮は、近所づきあいは希薄に思えますが、コミュニティとしての自治会活動は活発です。加入世帯へのメリットを感じる仕組みもあるようです。

【参加者 D】

少子高齢化だけでなく、若い人が進学・就職で市外へ出てしまい、戻ってこないケースが多いです。わが家も長男は一度戻ってきましたが、現在は市外に住んでいます。下の娘 2 人も県外で就職しています。都市部では車がなくても生活できる便利さがあり、生活のしやすさや楽しさで戻ってくるのが難しいようです。ただ、地元も好きで、戻ると安心するようですが、住み続けるまでには至りません。若い人たちが日光市に住んでみようかと思うような、日光市独自の魅力が何かもう少し打ち出せれば人口減少も抑えられるかもしれません。

【市長】

都会と競争するのは難しいですが、例えば宇都宮市との連携、通勤や定住への施策も考えています。土地は日光市の方が安く、最低限の施設や医療は揃っているのも、プロモーションやアプローチの仕方もあるのではと思います。宇都宮は日光と観光で連携したいと考えているようです。

【参加者 E】

獅子舞など伝統行事について、続けていきたいかというアンケートがあったが、何のために続けているのか、理由を知らない人が多くて、あまり興味を持っていないように感じます。

【参加者 D】

確かに「続けるメリットが分からない」というのは難しい点です。一時期中断して、再開した経緯もありますが、やはり自分たちの親や祖父母が繋いできたものを継承したいという思いもあります。これをどう次世代に伝えていくかが重要なので、子供たちに理解してもらって興味を持てるように、大人が工夫していく必要があると考えます。

【参加者 F】

今年、獅子舞奉納をやってから、参加する子供が増えました。子どもを見てあげる、誉めてあげる場が増えれば、子どもはやりたいと思う。大人がうまく持っていくと糸口はあると思いました。

【参加者 G】

農業についてですが、担い手不足が深刻です。塩野室地区の若手の農家の担い手で「こめこめクラブ」という集まりがあり、平均年齢 51 歳ですが、情報交換などをしながら楽しく活動しています。上都賀農業振興事務所のサポートはあるが、市のサポートも欲しい。稲作が特に後継者が少なく、今後の農地維持も大変です。農地は荒れてしまったら、戻すのは大変です。支援があってもハードルが高く、途中で諦めてしまう人が多いです。

【市長】

テレビの収録で「しゃりまんてん」を PR してきたところです。こめこめクラブのような若手の集まりは、アイデアがあるでしょうから、行政としてどういう形で支援できるのか、お話をお聞きしたい。ぜひ、若い人たちとお話をしてみたいです。

【参加者 C】

母親が免許返納したことで、交通の便の悪さを痛感しています。家族がいないと生活が難しい点が不安です。いずれ自分も免許返納する年齢になれば、不便さが増すと思っています。また、この地区に一定規模のスーパーが欲しい、病院や交通、これら 3 点が課題です。山への冷蔵庫などの不法投棄についても悩んでいます。古い話だが、父親が市に相談した時は、「それは土地の所有者が処分するもの」と言われたのが、頭に残っています。

【地区センター所長】

民地の場合は土地所有者が対応することになっています。

【参加者 C】

そういう現状があることだけお伝えしておきます。

【市長】

アンケートでデマンドバスとかライドシェアが出ているが、塩野室では地域でデマンドタクシーとかの話はありましたか。

【参加者 H】

まちづくり協議会では動きは出ていました。

道路の整備について、13 年前から県への要望を出して以来、鉄道のない塩野室で、道路整備を進めてきました。沓掛・嘉多蔵線、芝河原から小林の農道、小学校の周りが狭くて仕方がないという 3 つが課題となっています。住民増加のためにも道路整備は重要だと考えています。引き続き要望していきます。

【市長】

道路の整備、拡幅はこの場ではどうとも言えませんが、皆さん共有、承知しているということ。

【参加者 F】

長女が高校になるとバス代が月に 3 万円かかり家計への打撃が大きい。バスの本数も少ないです。ライドシェアや自動運転車の導入など新しい取り組みを期待していますが、現実的にはまだ難しい面もあります。高校通学では原付バイク通学の許可など、親の負担軽減策も必要ではないかと思えます。バス代の助成があると子育てしやすいという要望があります。

少子化については、今住んでいる子が満足してくれていれば、住み続けてくれるのではないかと思えます。

満足度を上げる取り組みとして、どんど焼きなども、まちづくり協議会に所属しやっています。  
小林小学校は教育が手厚いので、他地区からも受け入れできるような制度があると良いと思います。小規模校は活躍の場も多いので、子どもたちにもメリットが大きいです。

【副市長】

宇都宮市内の城山西小学校では宇都宮市全域に広げ、子供を増やした取り組みがありました。教育を特化させることで他から呼んでくることかできるか研究の余地はあるかもしれません。

【市長】

市内の中で好きな学校に行けるというのは面白い発想だと思いました。

【参加者 E】

高校選びのアンケートの中で、通いやすい高校に行きたいに入れた人が多かった。通いやすいようにバスや電車の本数が増えたらよいと思いました。

【地域振興部長】

いただいた話は、関係部署にお伝えしたいと思います。

【市長】

皆さまのご協力に感謝申し上げます。引き続きご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。